

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4073100309		
法人名	株式会社 福岡福祉会		
事業所名	グループホーム アンクラージュ大橋南		
所在地	春日市桜ヶ丘8丁目29番地 〒816-0872 (電話) 092-593-2252		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年9月12日	評定確定日	

## 【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年6月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人 常勤	15人 非常勤	0人 常勤換算 7.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 6階建ての～ 2階部分
------	---------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7万5千～9万2千円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(20万～50万円) 無	有の場合償還の有無	○有 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	円程度			

### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

登録人数	15名	男性	4名	女性	11名
要介護1	1名	要介護2			7名
要介護3	4名	要介護4			3名
要介護5	0名				
要支援1	0名	要支援2			0名
年齢	平均 85.45歳	最低 79歳	最高	101歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人HUCたけとみクリニック 渡部通歯科 医療法人おがた眼科医院
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福岡市の中心から南へのびる幹線道路を挟んで集合住宅が立ち並ぶベッドタウンの一角、春日市と福岡市との境界線に居を構えている。代表である理事長は実親の介護経験を通じて垣間見た、当時の老人施設の処遇に疑問をいだき、完全個室の特養、複合施設、ケアハウス等を立ち上げ、平成15年に設立したグループホームである。地域で最初のグループホーム開設であるのに加えて、名前の響きや建物の様相自体から、隣接する高層マンションと同調し、「グループホーム」としては認知度は低く、地域住民に知っていただくために努力を積み重ね、その努力が実を結び、地域や自治体との協力体制が得られてきている。行政を中心に、他事業所とともに地域全体で高齢者を取り巻く環境を改善しようと、意欲的な姿勢が伺える事業所である。

## 【重点項目への取組み状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題と今後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価結果を職員会議や運営推進会議等で協議し、地域密着に向けての行事や公民館活動への参加、公園の清掃活動等を通じての地域交流と入居者の思いを汲み取るケアの実現に取り組んでいる。
	<b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b> 自己評価の際には職員全体で評価の意義や目的について確認しあい、サービス改善へ取り組む姿勢が伺えた。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 自治会、民生委員、市の担当者、家族、入居者(可能な限り)参加のもと2ヶ月に1度開催している。ホームの概要や行事の報告、家族からの意見や要望についての話し合い、外部評価結果を受けての改善策の検討など多岐にわたって協議し、地域連携を意識した話し合いの場となっている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族との個別面談や相談・苦情についての申請用紙と提出箱を設けており、表出しにくい苦情や要望を汲み取れるようにしている。また、家族会や運営推進会議等でも意見や要望を出していただく機会を設け、介護記録の送付や緊急時の対応説明の要望等、活発に意見交換がなされている。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 毎日の散歩や地域での買い物等のほか、運営推進会議等で得た地域の夏祭りや清掃等への参加、グランドゴルフへの見学などの交流がある。地域からも保育園児の来訪やホームの夏祭りへの参加やピラ配りの手伝い、駐車場の提供などの支援があり、相互の交流を深めている。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	地域密着型介護サービスへの改正にともない、既 存の理念を基に、地域とのかかわりを掲げた理念・方 針を全職員で協議し作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	エレベーターホールやホーム内に理念を掲示し、カ ンファレンス時や朝礼時に唱和している。また、時に は、入居者も一緒に唱和するなど、職員・入居者共に 地域密着の理念に向けて意思の統一を図っている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	運営推進会議等で得た地域の夏祭りや清掃等への 参加、グランドゴルフへの見学などの交流がある。地 域からも保育園児の来訪やホーム夏祭りへの参加、 ピラ配りの手伝い、駐車場の提供などの支援があり、 相互の交流を深めている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果を踏まえ家族、職員、地域と 協議し、地域密着に向けての地域交流への取組みや 入居者の思いを汲み取るケアの実現に取り組んで いる。自己評価の際には、職員全体で評価の意義や目 的について確認しあい、実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、市の担当者、家族、入居者(可能な限り)参加のもと2ヶ月に1度開催している。ホームの概要や行事の報告、家族からの意見や要望についての話し合い、外部評価結果を受けての改善策の検討など多岐にわたって協議し、地域連携を意識した話し合いの場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム運営上の質問や相談を行政担当者に頻繁に行い、ホームの状況を知ってもらう機会を作っている。行政担当者は、ホーム夏祭りや家族会への参加、運営推進会議への助言や他事業所の運営推進会議への相互見学のセッティングなどの支援があり、行政、他事業所とともに連携し質の向上に取り組む姿勢がある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議やカンファレンス等で勉強会を開くなど、職員の制度への理解を図る取り組みがある。家族や本人へは、契約時や家族会、運営推進会議等で資料を配布し、具体的な利用手順や連絡先などの説明を行っており、事業所として制度の活用を支援できる準備がある		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に4回、会報を発行するほか、面会時に近況報告を行なっている。また、家族は介護記録や外出時のスナップ写真等をいつでも閲覧でき、介護記録等は希望により家族に送付され、金銭管理は毎月レシートを添付して使用用途の詳細票を送付している。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との個別面談や相談・苦情についての申請用紙と提出箱を設けており、表出しにくい苦情や要望を汲み取れるようにしている。また、家族会や運営推進会議等でも意見や要望を出していただく機会を設け、介護記録の送付や緊急時の対応についての説明や要望等、活発に意見交換がなされている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめ、やむを得ない離職の際も引継ぎの機関を一月ほど設け、馴染みの職員が新人職員の指導にあたり、入居者の環境や感情への影響がないように配慮している。この1年は職員の離職も多く見られたが、個々半年、やっと落ち着いてきた状況である。		職員全員に話を聞き、法人本部との協議により、できる限りの改善に努められた結果、ここ半年は職員の離職がないとのこと。馴染みの職員が継続的に支えることができるような関係づくりや取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に際して性別や年齢に制限を設けておらず、本人のやる気を重視している。資格取得を目指すための支援、勤務の割振りや希望する休みへの配慮ができる体制作りと、職員のプライベート時間の充実に努めている。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	今年度より、行政から講師を招いて勉強会を開催するなど、法人全体で人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験年数やスキルに応じて参加を促し、参加後は事業所内で受講報告会を開催し、職員全員で情報を共有している。また、資格取得のための研修の案内をはじめ、各種研修会等の案内を事務所内に掲示し、参加希望があれば休みを調整する等の支援がある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会で行われる勉強会等を通じて交流を深めている。地域にある他の事業所の管理者とは情報交換等を行っており、今後は職員レベルで交流する機会を計画中である。		グループホーム協議会における職員交流のみならず、行政や他の事業所との連携を通じて、他事業所との職員同志の情報交換や相互見学、体験交換などを通じてサービスの質の向上への取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の職員による自宅訪問や面接、施設見学、体験入居など馴染みの関係づくりへ取り組んでいる。本人・家族と話し合い、以前の生活環境との差がなるべく生じないように、家具や私物の配置等を工夫し、早くホームに馴染めるための取組みがある。		
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の下ごしらえや味付け、家事の工夫など入居者が得意な場面では、自然と職員が教えてもらいながらの共同作業をしている。また、職員が入居者に昔からの慣習や風習について、日常生活の中で相談を持ちかけるなど、自然に支えあう関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や家族からの聞き取りの他に、面接に来られる親族や友人など、本人と関わりがある方からも、習慣や生活歴をうかがい、日頃の様子や会話を通じて確認している。意見や希望が少ない入居者についても、本人の動作や表情等から思いや意向を汲み取るなど、職員全体で話し合い検討している。		
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居時に把握した本人や家族の意見や要望、職員が推しはかった本人の意向等を出し合い、職員全体で検討し、本人本位の介護計画を作成し、総合的な方針や具体的な支援の方法等を確認している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	定期的な見直しの他に、毎月、本人の 状況や様子、支援の方針等情報の交換 や共有を行い、職員全員で検討し確 認している。変化や問題が認められ た場合は家族に連絡し、意向を伺っ たうえで、カンファレンスを行い、現 状に即した新たな計画を作成してい る。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能 性を活かした柔軟な支援をしてい る	本人が希望するかかりつけ医の 受診介助など、本人、家族の状況に 応じて柔軟に対応している。また、 地域の高齢者に関する相談に対応 する等の取り組みを行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適 切な医療を受けられるように支援 している	主治医と歯科については契約時に 、本人、家族の意向を聞き、個別 のかかりつけ医への受診か協力病 院の往診が出来るように支援して いる。耳鼻科、眼科、皮膚科等につ いても地域の医院と連携し受診の 支援を行い、適切な医療を受けら れる体制を整えている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方 について、できるだけ早い段階から 本人や家族等ならびにかかりつけ 医等と繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	医療体制導入に伴い、緊急時や重 度化に対する方針と事業所として 最大可能なケアについて説明を行 い、本人、家族、一人ひとりの意 向について話し合いを行いながら 確認し、関係者で方針を共有して いる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
。					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	定期的な研修等での指導や、朝・夕の申し送り時 に、言葉遣いや対応について確認している。記録・情 報の管理については規程を設け、厳重な取扱いをし ている。各居室にはトイレも設備されており、小窓にも 暖簾をかけるなど、プライバシーを確保するための配 慮がある。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての一応の流れはあるが、その時その時 の本人の気持ちを尊重し、決して無理強いせず、様 子をみながら、食事や入浴、レクリエーションの声掛 けを行っている。また、外出や散歩なども、入居者の 希望を優先して柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	調理の下ごしらえや、盛り付け、配膳、片付け、席の 確認など、一人ひとりができる範囲で協力しながら食 事の用意や準備を行い、入居者、職員共に食卓を囲 んでいる。職員と入居者は「美味しいですね」と互いに 声をかけあい、会話しながら食事を楽しんでいた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	原則として2日に一回の入浴を実施しているが、希 望があれば、毎日の入浴や夕食後の入浴も可能であ る。入浴を拒否される方には無理強いせず、入浴時 間をずらしたり、お誘いの声掛けの方法を工夫して快 く入浴していただけるように支援している。入居者の 好みの湯温やシャンプー類の使用など入浴を楽しん でいただけるような取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や本人の希望から、一人ひとりの得意分野を把握し、その力や能力が発揮できるような場面を意識的に設けている。また、興味がありそうな趣味や家事等を、本人の様子から汲み取り、楽しみや役割、張り合いとなるように支援している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩の他に、毎週のドライブや買い物、行楽に出かけている。入居者の希望に沿って、県内外への小旅行も計画・実施され、車椅子の入居者も安全かつ快適に戸外活動を楽しめるように、外出先の情報を集め、検討し、実施するなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事についての弊害を研修等で職員全員が認識し、建物内のドアは常時開錠している。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内に防災委員会があり、災害時マニュアルの作成と周知、毎月の話し合いを行い、年に2回は夜間を想定した避難訓練を実施している。災害時等において地域の人々の協力を得るための働きかけは今後の課題である。		地域で実施されている災害時訓練に参加する計画を検討中であるとのこと。この計画を足がかりに、イザという時に地域住民の協力を得られるように取り組んでいただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設ケアハウスの献立を参考にし、カロリーや栄養のバランスを考慮しながらメニュー作成がある。食事・水分摂取量を記録し、状況に応じて対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	動線に沿った家具の配置など安全に配慮さ れ、テレビの音量や採光の調節、照明の明暗な どが調度良く配慮されている。壁には季節を感 じさせる装飾や外出先での写真などがさりげな く施され、居心地よく安心できる空間作りへの 工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、クローゼットが設備され、床はフ ローリングか畳を選ぶ事ができる。本人・家族の希望 がある場合には手摺等の設置にも対応が可能であ る。寝具や日用品などは、本人と家族が相談して馴 染みのもを持ち込み、その人らしく居心地良く暮せる 工夫をしている。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号